

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	17106012	研究期間	平成17年度～平成21年度
研究課題名	マイクロ現場遺伝子解析システムの実海域展開と機能の高度化	研究代表者 (所属・職)	藤井 輝夫（東京大学・生産技術研究所・教授）

【平成20年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

マイクロ現場遺伝子解析システムを世界に先駆けて開発し、実海域での解析を試みてその基本動作を確認するとともに課題を抽出した点は評価できる。しかし、再現性と検出感度の点で十分な性能が得られず、予定した研究計画が遅延しており、その結果、予定した実海域での長期観測に十分な時間が確保できない可能性が生じている。これらの性能不足は研究室での注意深い試験で事前に把握できた可能性が高いことから、準備不足を否定できない。これらの性能不足の原因の特定と、これに対する対策案およびその基本的効果が既に示されていることから、現時点での遅延にもかかわらず、当初の目的をほぼ達成できる可能性は十分にあると考えられる。

時間を含む研究資源の有効利用の観点からも、十分な事前検討と準備を経て実海域での解析に臨むことを期待する。

【平成22年度 検証結果】

<p>研究進捗評価結果どおりの成果が達成された。</p> <p>平成20年度における研究進捗評価後、研究代表者らの多大な努力により、新しく開発された現場型微生物遺伝子解析装置の実海域における作動確認及びデータの取得がなされた。その後も装置の改良が地道に行われており、ほぼ当初の予定通りの成果が達成されている。改良及びデータ取得に時間がかかったためであると考えられるが、これまでの当該研究に係る論文発表数は絶対的に少ない。独創的かつ重要な成果であるので、今後の論文発表によって研究成果のより社会的な周知を期待する。</p>
--